

## 農林水産物のインバウンド需要拡大に向けた取組について

食育消費流通課

新型コロナウイルス感染症に伴う渡航制限が緩和されたことから、2023年の訪日外国人（以下、インバウンド）数は2,500万人を上回り、コロナ禍前の8割程度まで回復してきました。

本県では、農業観光ルートの創出など、ポストコロナを見据えた県産農林水産物のインバウンド需要拡大に向けた取組を進めており、これまでに以下の取組を行いました。

## 1 農業観光ルートについて

愛知県に訪れた外国人の方が、県産農林水産物や地域の魅力を感じることができる「農業観光ルート」の創出を目指し、インバウンド受入れに積極的に取り組む事業者で構成される農業観光ルート創出プロジェクトチームを結成し、2022年度に11種類の「農業観光ルート」が完成しました（図1）。

ルートの詳細については、県Webページで紹介しています。  
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shokuiku/agri-root.html>

※地区別ルート数：尾張3、知多1、西三河2、東三河5



図1 ルートの一例  
 （岡崎市・豊田市）

## 2 ワークショップの開催

2023年度は、インバウンドにとってさらに魅力ある農業観光を実現するため、地域事業者及び地域資源のマッチング支援として、ワークショップを県内各地で全5回開催しました（図2）。

農林漁業者、宿泊業者、観光協会、市町村（農業部署及び観光部署）等が参加し、多様な分野の事業者がアイデアを出し合い、地域資源の魅力の深掘りや連携の工夫について検討しました。

ワークショップ終了後には、名刺交換や具体的なマッチング企画の検討など、参加者同士の交流が活発に行われました。



図2 ワークショップの様子

## 3 成果報告会の開催

全5回のワークショップで話し合われた内容について、2024年2月14日に成果報告会を開催しました。

成果報告会には17人が参加し、ワークショップの地域ごとの特徴的なポイントや共通の課題についての報告、今後のインバウンド対応に向けたアドバイス等を参加者同士で行い、さらなる農林水産物のインバウンド需要拡大となるよう、地域間で情報共有を図りました（図3）。



図3 ワークショップ・  
 成果報告会のチラシ